
第 2 章

都市づくりの目標

2-1. 都市づくりの目標

2-2. 将来都市構造

2-1. 都市づくりの目標

上位関連計画、本市の現況及び市民意向から見える都市づくりの課題や歴史、文化などを踏まえ、本計画の方向性を定めます。

1. 都市の将来像と基本目標

具体的な施策の展開や計画策定の共通目標として、本市が今後 20 年のうちに実現を目指す「将来像」とその実現に向けた都市づくりの基本目標を以下のように設定します。

将来像

人・自然・歴史文化が調和し、特色ある拠点がネットワークで結ばれ 都市の豊かさが次世代へ受け継がれるまち

各拠点の魅力が調和し、交通ネットワークによって市全体が結ばれる都市構造を目指します。また、拠点内では生活に必要な機能の集積、住環境と産業・観光振興との調和や美しい自然環境の保全を行った上で、その豊かさを次世代へ継承できるような、質の高い持続可能な多極連携・集約型の都市づくりを目指します。

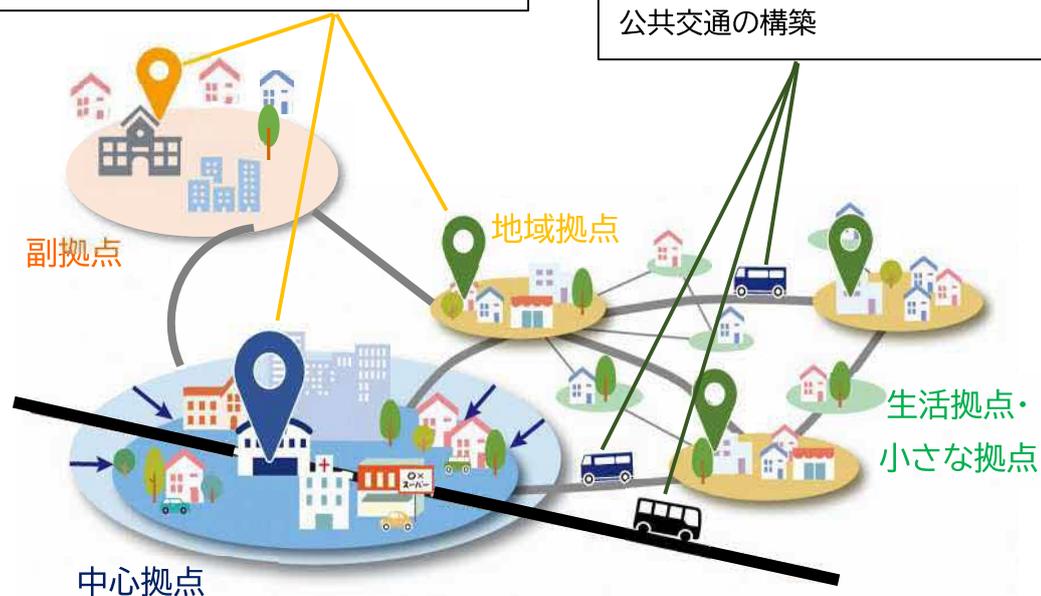
<イメージ：多極連携・集約型都市>

拠点の形成

必要な場所に必要な機能を誘導

ネットワークの充実

拠点同士や、拠点に行きやすい公共交通の構築



(国土交通省「立地適正化計画作成の手引き」等のイメージを基にうま市の特性を踏まえ加工)

基本目標① 構築・再編

特色ある拠点が核となり、連携・集約した持続可能なまち

- ・本庁舎周辺を核とした中心拠点とそれらと連携する生活拠点の形成
- ・各拠点の特色を生かすための土地利用コントロールや歩いて楽しいまちづくり
- ・多極連携・集約型都市を形成するための、交通ネットワークの再構築
- ・都市機能の集積や都市施設の統廃合

基本目標② 振興

住環境・産業・観光が調和し、人々が交流できるまち

- ・港湾や産業基盤を生かした、雇用の場の創出
- ・戦略的な拠点づくりによる交流人口・関係人口の増加
- ・文化財や自然、新たな技術を活用した、観光地一帯の魅力創出

基本目標③ 保全

うるまらしい景観・自然・文化伝統が継承されるまち

- ・次世代へ繋ぐ自然環境の保全
- ・都市の特性を支える自然資源・文化財の保全活用
- ・都市の潤いや質を高める景観や水とみどりのネットワークの創出

基本目標④ 安全・安心

安全・安心に住み続けられるまち

- ・どの地域でも住み続けられる安全・安心なまちづくり
- ・「強さ」と「しなやかさ」を合わせ持った都市・地域の形成
- ・ユニバーサルデザインに配慮したみんなにやさしいまちづくり

基本目標⑤ 都市経営

将来を見据えた都市のマネジメント

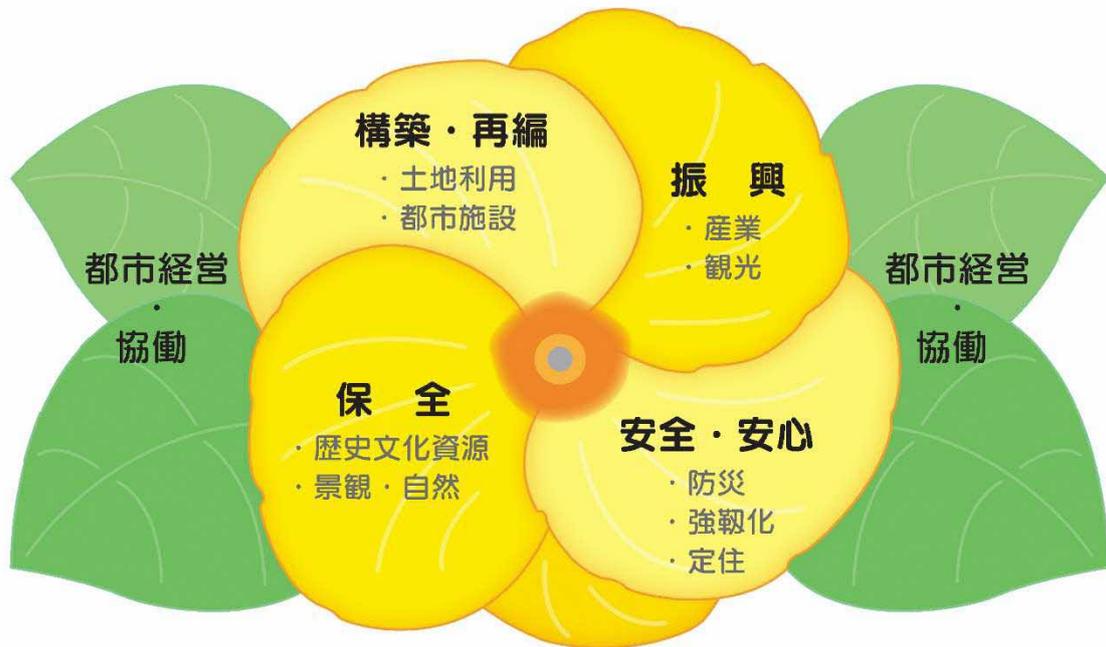
- ・需要と供給のバランスが成り立つ都市施設の維持管理
- ・経済、社会、環境が調和した持続可能な（SDGsの理念を踏襲した）まちづくり
- ・市民・事業者との連携による都市マネジメントや付加価値の創出

基本目標⑥ 協働

様々な主体が相互に補完・協力しあうまち

- ・市民・地域コミュニティ・行政と協働によるまちづくり
- ・積極的な公民連携手法の導入
- ・市民や事業者などの主体的な取組みへの支援
- ・自治会やNPOなどによる地域コミュニティ形成の促進及び支援（ソーシャルキャピタル⁵の醸成）

<イメージ：うるま市の花木「ユウナ」>



5 ソーシャルキャピタル：人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

2. 将来目標人口

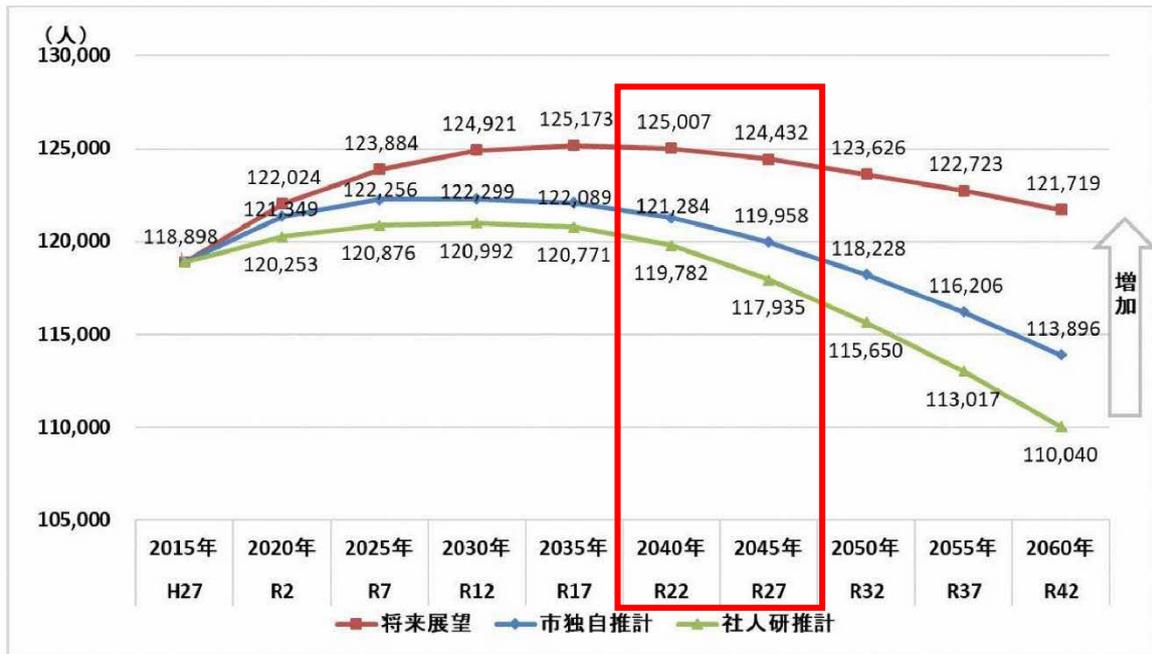
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本市の将来人口は増加傾向にありますが、令和12年をピークとして、以降は減少し転じ、令和22年には119,782人となる見込みです。

一方、「第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、雇用の場の創出、新しいひとの流れの創出、若い世代の子育て等の希望をかなえる、快適で安心したまちをつくることで「将来展望」において令和22年の目標人口を125,007人と見込んでいます。

本計画においては、第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の「将来展望」に基づく人口フレームを採用し、令和24年の目標人口を約124,600人とします。

目標年次：令和24年
目標人口：124,600人

◆人口の推移



[出典：第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）]

2-2. 将来都市構造

1. 将来都市構造の考え方

(1) 基本的な考え方

将来都市構造は生活や産業の中心となる拠点及びその拠点間や周辺市町村と連携するための軸・ネットワークを設定します。また、拠点・軸の特性に沿った将来の土地利用を勘案したゾーンを設定します。

(2) 設定の考え方

上位関連計画、本市の現況及び市民意向を踏まえ、「中心拠点」「地域拠点」などを設定します。また、拠点、軸及びゾーンの考え方は以下の通りです。

<都市構造の構成要素>

拠 点

- 都市活動の中心となる場であり、それぞれの特性に応じて各種機能を集積する地区を拠点と設定
- 行政、産業、観光など、核となる機能をもった地区、地域生活サービスの核となる地区を拠点と設定

軸 ・ ネット ワーク

- 市の活性化、賑わいの創出・発展のために各拠点及び周辺市町村を結び、ひと・もの・機能・情報などのつながりを空間的に表したものを軸と設定
- 道路、公共交通など人や車などの動線をネットワークと設定

ゾーン

- 市土をそれぞれの地域特性・機能ごとに区分し、土地利用の基本的な方向を示すエリアをゾーンと設定

2. うるま市が目指す将来都市構造

(1) うるま市が目指す将来都市構造の方向性とねらい

<都市構造の方向性>

東西と南北に長い地形・島しょ地域の特色を捉えた、 うるまらしい「多極連携・集約型都市」の形成

それぞれの地域特性に沿った都市機能を集積させ、特色ある拠点をネットワークで結ぶことにより、誰もが暮らしやすいまちづくり・質の高い持続可能な都市経営を目指す

<多極連携・集約型都市を形成するねらい>

< 全体 >

都市の一体性を強化

- ・ 第1次計画（平成22年）において、平成17年度の2市2町合併を踏まえ、都市の一体性強化に向けた将来像の実現を掲げています。
- ・ 第2次計画においても、引き続き都市の一体性を強化するため、本市の都市吸引力を高め、都市活力を牽引する中心的な拠点形成とともに、各地域及び生活圏を支える拠点及び産業・観光拠点の形成と拠点間を連携する都市構造（多極連携・集約型都市）を目指します。
- ・ 特に、東西と南北に長い地形、島しょ地域を有する本市の特性からも、各拠点、生活圏をネットワークで結び、適切な施設や機能を配置することで今後予想される人口減少社会にも耐えうる将来都市構造を目指します。

< 拠点形成と機能分担 >

特色ある拠点形成などによる賑わい再生、交流人口・関係人口⁶の増加

- ・ 中心拠点や副拠点など、都市における生活利便性の確保に向けた拠点形成に加え、公民学が連携した産業振興、うるまらしい景観や自然を生かした観光地の整備により、賑わいのある拠点形成を目指します。
- ・ 各拠点における役割を明確化し、拠点の規模や誘導する施設の適正化を図ります。各拠点をネットワークで結ぶことにより、本市が目指す多極連携・集約型都市を形成し、賑わいや活力を高めます。
- ・ 拠点においては、空き家や公共施設跡地の活用によって、地域資源を利用した賑わいの再生、地域の再編・再構築を推進し、質の高い住環境・生活空間の形成を目指します。

< 拠点と生活圏 >

地域での定住と生活利便性の強化による歩いて暮らせるまちづくり

- ・ どの地域においても、生活圏内で日常生活が不便なく行うことのできる拠点と生活圏の形成を目指します。
- ・ 過度な自動車利用に頼ることなく、歩いて日常生活を送ることのできるまちづくりをすることで、子どもからお年寄りまで、誰もが暮らしやすく健康的な生活を送ることのできる将来都市構造を目指します。
- ・ 拠点と生活圏の形成においては、各地域内に点在する集落や地域コミュニティの生活利便性向上に向けた取組みを推進します。

< 土地利用の適正化、効率的な基盤整備 >

都市の成長管理⁷、効率的な都市経営の実現

- ・ 拠点における適切な都市機能及び施設を誘導します。また、拠点周辺においては、必要に応じて用途地域の指定など、計画的な土地利用を検討します。
- ・ 無秩序な開発を抑制し保全と開発のバランスを保ち、これまでに蓄積された社会資本を活用しながら、質の高い安全で快適な都市環境、持続可能な都市形成を目指します。
- ・ 今後の高齢化・人口減少社会を見据え、公共施設の集約化や統廃合、都市基盤施設の効率的な維持・整備を適切に行うことで、健全な都市の成長管理・効率的な都市経営を目指します。

< 交通ネットワーク >

快適な道路網及び公共交通ネットワークの構築による都市構造の形成

- ・ 本市の東部地域はハシゴ道路ネットワークの空白地帯となり、アクセス性に課題があるため、ハシゴ道路と連絡する東西連絡道路の構築を推進します。
- ・ 拠点と拠点、拠点と生活圏を有機的に結び、都市の一体性や活力を高めるため、道路ネットワーク、公共交通ネットワークを強化します。
- ・ 各拠点へのアクセスについては、高齢者や障がい者、子どもをはじめとした交通弱者や観光客などが、車以外でも容易に移動ができる、公共交通ネットワークの構築を目指します。
- ・ 将来の公共交通ネットワークを見据え、コミュニティバスの運用強化や既存公共交通との連携等、新たな交通システムの導入を検討します。

6 交流人口：観光などを目的として本市を訪れる人

関係人口：祭りやイベントの運営に参画するなど、地域に継続的に多様な形でかかわる人

7 都市の成長管理：市街地が無秩序に広がることで、道路や公共下水道等の都市施設の新たな整備が必要となり、維持管理コストも増加し、多大な財政負担が発生することが予測されます。また、開発により、豊かな自然や住環境、景観などの貴重な財産が失われていくこととなります。これらのことから、今ある豊かな環境を守り、効率的・効果的な都市施設の投資や維持管理を行うために、土地利用をコントロールすること(第1次計画より踏襲)

3. 将来都市構造

(1) 点的要素：拠点

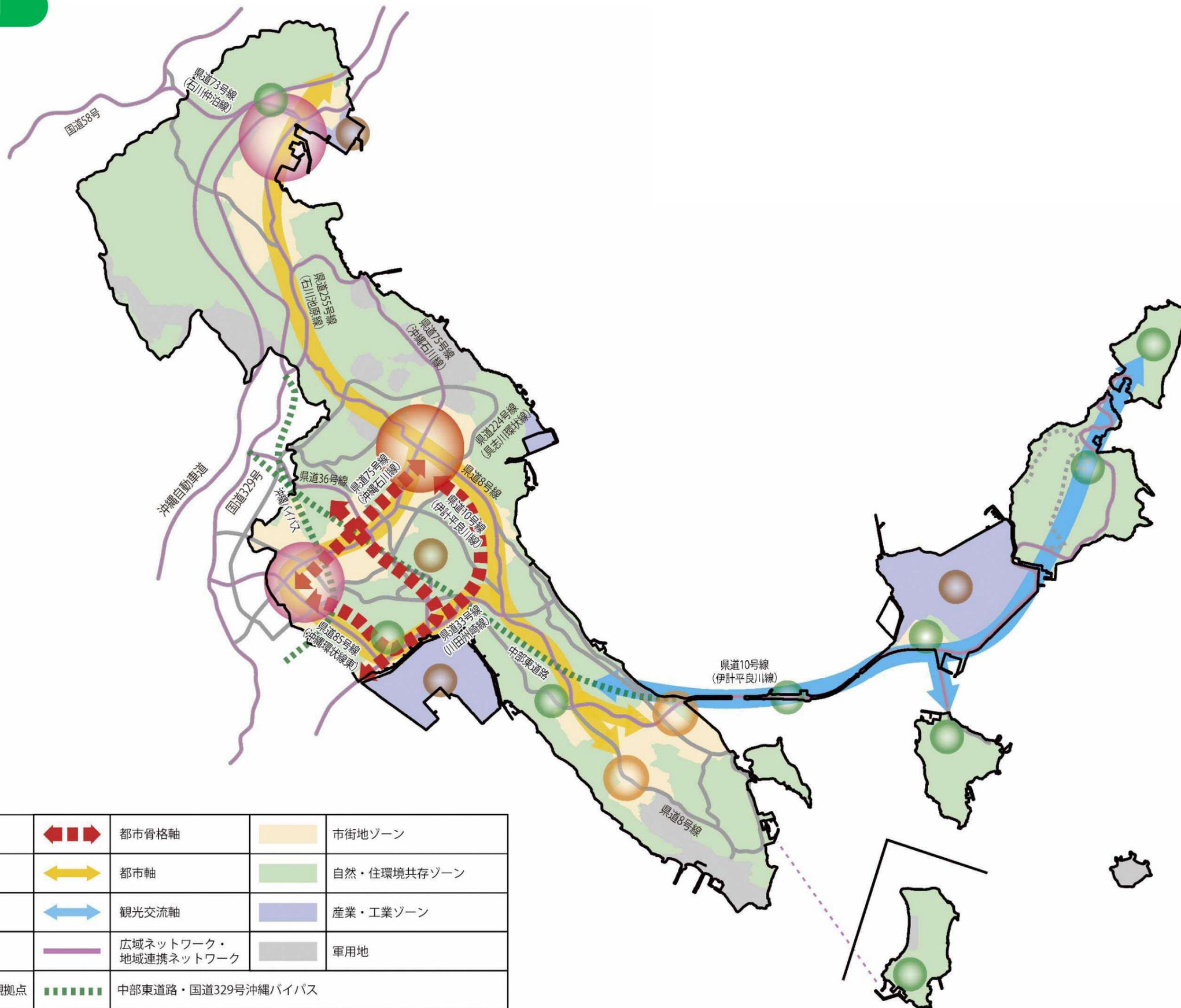
| うるま市の集約型都市・定住（住みよさ）を牽引する拠点 | | 配置 |
|---|-----|--|
| 中心拠点  | 役 割 | ・市の魅力や活力を牽引するまちの顔となる拠点 |
| | 方向性 | ・ひと・もの・機能・情報が集積し、人々の交流の場となる都市の拠点性を高めることを目指します。 ・様々な機能の集積、人の交流や活動が行われることで、まちの多様性を育むとともに、歩いて楽しいまちなかの創出を目指します。 |
| 副拠点  | 役 割 | ・周辺都市と連携し、市の玄関口として機能する賑わいや発展を牽引する拠点 |
| | 方向性 | ・ひと・もの等の流れや周辺都市圏（沖縄市、金武町、恩納村ほか）の都市拠点の一つとして、市の発展に寄与する拠点の形成を目指します。 ・生活機能の集積及び日常的なサービスの提供を目指します。 |
| 地域拠点  | 役 割 | ・地域の生活利便性を高める拠点 |
| | 方向性 | ・日常に必要な生活機能を誘導、集積することで、生活圏を一体とする（島しょ地域を含めた）周辺地域へのサービス向上・生活機能の需要に応え、定住人口の維持（増加）、住みやすさの向上を目指します。 |
| うるま市の魅力や個性を高める拠点 | | 配置 |
| 産業拠点  | 役 割 | ・経済活動、産業振興の中心となる拠点 |
| | 方向性 | ・流通機能、生産機能及び研究施設の立地や公民学連携により、県及び本市の産業振興、雇用機会を創出し、都市活力の向上を目指します。 ・周辺地域と連携による更なる産業振興の形成を目指します。 |
| 観光・交流・景観拠点  | 役 割 | ・市のシンボルとなり得る観光地や文化、交流、景観の拠点 |
| | 方向性 | ・観光、文化、自然等の資源を生かし、市の賑わいや魅力を創出し、住む人訪れる人が交流できる拠点の形成を目指します。 |

| うるま市の住みやすさ地域のつながりを維持する拠点（核） | | | 配置 |
|-----------------------------|-----|--|----|
| 生活拠点 ・ 小さな拠点 | 役割 | ・各地区、コミュニティ単位的生活利便性を確保する拠点 | - |
| | 方向性 | ・上記各拠点と連携し、各地区（小学校区等）、各集落単位のコミュニティの維持を目指します。 ・地域社会への参加機会等の充実により、ソーシャルキャピタルが醸成した拠点の形成を目指します。 | |

(2) 線的要素：軸・ネットワーク

| 軸：市内外からの主たる往来やひと・ものの流れ | | | |
|---|-----|--|--|
| 都市軸  | 役割 | ・中心拠点を核として各拠点を結び、都市機能の集積や賑わいを形成する軸 ・各拠点を結び、本市の一体性を創出する軸 | |
| | 方向性 | ・都市軸を中心とし、都市的土地利用の展開、交通利便性の充実を推進します。 | |
| 観光交流軸  | 役割 | ・観光周遊の基軸 ・都市軸と連携しながら、各地域等の連携を確保する軸 | |
| | 方向性 | ・交流人口、関係人口をはじめ、本市における様々な人の流れ（回遊）を創出します。 ・地区に応じて、沿道サービスや地域資源を生かした観光など、複合的な賑わいを創出します。 | |
| 都市骨格軸  | 役割 | ・産業振興等を見据え、特に活発な人やものの流れを生み出し、都市活動を推進する軸 | |
| | 方向性 | ・中心拠点や産業拠点を一体的に結び、市内の生産や生活を支える骨太な都市骨格を構築します。 | |
| ネットワーク：都市間及び拠点と拠点をそれぞれ結ぶ道路及び公共交通ネットワーク | | | |
| 広域ネットワーク  | 役割 | ・隣接する都市間の連携に寄与するネットワーク | |
| | 方向性 | ・都市間の円滑な人の移動や物流の流れを確保する道路ネットワーク、公共交通ネットワークを構築します。 | |
| 地域連携ネットワーク  | 役割 | ・各拠点を結び、市全体の連携に寄与するネットワーク | |
| | 方向性 | ・地域間の円滑な移動、交通の流れを確保する道路ネットワーク、公共交通ネットワークを構築します。 | |

将来都市構造図



| | | | | | |
|--|------------|--|---------------------|--|-------------|
| | 中心拠点 | | 都市骨格軸 | | 市街地ゾーン |
| | 副拠点 | | 都市軸 | | 自然・住環境共存ゾーン |
| | 地域拠点 | | 観光交流軸 | | 産業・工業ゾーン |
| | 産業拠点 | | 広域ネットワーク・地域連携ネットワーク | | 軍用地 |
| | 観光・交流・景観拠点 | | 中部東道路・国道329号沖縄バイパス | | |